

平成 30 年度第 1 回厚木市里地里山保全等促進委員会の会議録

- 1 日 時 平成 30 年 8 月 3 日（金）午前 10 時 00 分から 11 時 30 分まで
- 2 場 所 厚木市第二庁舎 11 階会議室
- 3 出席者 厚木市里地里山保全等促進委員会委員 8 人
事務局（環境政策課長、環境共生係長、環境共生係副主幹） 3 人
- 4 主管課 環境政策課
- 5 案 件 (1) 里地里山保全等促進条例の運用状況について・・・資料 1 ～ 3
(2) その他

6 会 議 録 次のとおり

事務局	〔1 開会〕 －本年度第 1 回目会議開催の旨伝える。－
委員長	〔2 あいさつ〕 猛暑が続いており、農業だけでなく生活にも影響が出てきている。 里山については、従来から人が関わることでその環境を守ってきたが、関りが希薄になったことでその機能を果たせなくなっている。 保全に関わる活動は、中山間地域だけでなく、都市部の人々にも影響をもたらす。 未来の厚木市においても里地里山は重要であり、この委員会の役割は大きい。理念を共有しながら進めていきたい。
事務局	〔3 案件 (1) 里地里山保全等促進条例の運用状況について〕 －資料 1 ～ 3 の説明－
委 員	〔3 案件 (1) 質問・意見等〕 基金について、平成 29 年度末残高の中に、ふるさと納税による寄付金が含まれているという解釈でよいのか。
事務局	平成 29 年度末残高の中には、平成 28 年のふるさと納税による寄付金が含まれている。また、平成 29 年のふるさと納税による寄附金は、平成 30 年度の里地里山保全等促進事業費等に充当している。
委員長	ふるさと納税の寄附金を今年度の事業費に充てることで、市の持ち出しというか、負担分が軽減されているという認識でよいのか。
事務局	特定財源として、里地里山の保全を目的とした事業費に充てており、市の持ち出しという点では軽減されている。
委 員	納税者はどのように、そういった仕組みがあることを知るのか。

事務局	市ではふるさと納税に力を入れており、ホームページ等から案内をしている。納税する際に、19 項目から寄附金の使途を指定できるようになっており、その一つに里地里山保全等促進事業が含まれている。
委 員	そういう里地里山保全に充ててほしいというお金を、有効活用してほしい。
事務局	今後、安定して入ってくるようであれば、新たな事業等も検討し、里地里山保全を推進していきたいと考えている。
委 員	神奈川県でも保全すべき里地里山の地域選定の制度を持っている。市と同じ理念であると認識しているが、市で里地里山保全等促進地域に選定し、県の認定をまだ受けていない小鮎地域について、何か理由はあるのか。
事務局	市の条例に基づき、小鮎地域を里地里山保全等地域に選定し、活動団体への支援を行ってきた。順調に保全活動も行われており、県の認定を受ける準備を進めている。
委員長	ぜひ、その方向で進めてほしい。
委 員	積極的に大学や企業と団体との交流を進めているが、きっかけやアプローチについてはどうやってきたのか。
事務局	条例制定時、市内の各企業を回り協力をお願いした。比較的感触は良く、C S R 部門の担当者は、従来の道路植栽の管理やゴミ拾いなどの活動だけでなく、新たなC S R 活動を模索しており、興味を持っているとの回答をもらえた。実際の連携に結びついたのは僅かだが、定期的に団体の活動に協力をいただいている。 また、大学については、各団体が地域で活動を行っている则大学の総務のセクションとつながりを持っていたりするので、市はその側面から支援したりするケースもある。
委員長	市民や企業を受け入れるには、受け入れる地域や団体側の体制の整備やテコ入れの必要がある。 活動内容や活動日、受け入れの可否などの情報をオープンにすることも必要であるが、受け入れる側の団体は会員の高齢化や人手不足で、そこまで手が回らないという状況もある。 より活動を活発化させるには、補助金だけでなく、そういったサポートも検討していく必要がある。
事務局	市民や企業を受け入れるには、駐車場、トイレ、休憩場所などの問題がある。地域や団体は、猫の手も借りたいくらいだが、来てもらう以上は、満足して帰ってもらいたい、という思いがあり、それなりの準備をしなくてはならない。

委員長	七沢や飯山には温泉もあり、地域経済や観光の分野との連携を視野に入れていく必要がある。
委員	先ほど、活動におけるトイレの問題があったが、簡易トイレの設置などの環境整備についても検討してほしい。
事務局	事業費の活用案として検討します。
委員長	飯山の花の里にはトイレもあるが、今後の活動について、どう考えているのか。
委員	今年度、会長が交代した。会員の高齢化が進み、若手も入ってこないのが現状である。会長交代に伴い、名簿の整理をしたところ、高齢を理由に何人かが抜けることになった。会員を募集しても、うちの活動は植栽や草取りがほとんどなので、募集しても人が来てくれない。
委員長	飯山については、七沢と同様、温泉やハイキングの観光客がいるが、七沢の様に、観光客向けの駐車場やトイレを整備する考えはあるのか。
委員	庫裡橋のそばに自治会館ができ、外からトイレの利用ができるようになった。
委員長	そういうものを活用しながら、活動を進めてもらいたい。
委員	花の里も昔は荒廃地で、農大の学生が竹を伐採したのが、始まりである。その後、花を植えることになり、現在に至っている。
委員	各団体で、人集めに苦労している様子が伺えるが、市が植樹祭のようなイベントを企画し、実務は森林組合やNPOが担うような形で、底辺の拡大を図るような取り組みを検討してみては。
委員	こどもの森公園では、豊かな自然を壊さない前提で里山を整備し、生き物探しなどのイベントを行い、親子で自然に接する機会をつくるようにしている。
委員	北海道では、景観作物を作ったりしている。ヒマワリなどであるが、咲いた後は、トラクターで漉き込んでしまえばいいので、農業者も手がかからず、協力してもらえるのではないかと。 また、飯山の体験農園が紹介されているが、体験農園という形で、市民に参加してもらおうのもいいのでは。
委員長	山の際に景観作物を植えることは、鳥獣対策にもなる。
委員	まだ、厚木市の連携の事例はないが、小田原市や秦野市と連携してイベントを行っている。今夏は、小田原で用水路の生き物探しを実施した。今年で4年目になるが、夏休みや作物の収穫時期になると小田急は体験イベントをやる、というのが認知されつつある。 当初は、参加定員30組に対して1.5倍程度の応募数だったが、今は

	4～6 倍の応募状況である。運営する側からすると、トイレや着替え場所などのハード面の整備と、運営面では作業自体の指導と地元産の昼食を提供してほしい、という要望がある。その際には、地元の婦人方に協力してもらう形になる。 また、保健所の規制もあり、ちゃんとした施設の厨房内で調理したものでないと提供できない。その辺がクリアできれば小田急沿線であれば対応は可能である。 地元の方に負担を掛けてしまうが、参加者の満足度は高く、双方にとってメリットはあるのではないかと。条件を整えば連携を図っていきたい。
事務局	この場合、現地集合、解散という考え方でよいのか。
委 員	そうなるが、場所によっては駅に集合して臨時便のバスで行くケースもある。路線バスがあれば、バス会社に増便という形で対応してもらえ。今は参加者の要求レベルが高いので、そのレベルを上回るものを提供しようと、地元との調整を進めている。毎回、アンケートを取るが参加者の満足度は高く、若いお母さんなどはSNS等で発信してくれケースもある。
委員長	飯山ならイベントと食事、さらに温泉を組み合わせて提供できるのではないかと。
事務局	今後、調整を図っていきたい。
委 員	こどもの森公園にヤマビルはいるのか。
委 員	いる。対策として園路については、枯葉をブローで除去し、塩を園内に配置している。また、ヤマビルが出るエリアには極力入らないようにしているが、イベントをやれば被害にあう参加者もいる。
委 員	観光ボランティアをやっているが、ヤマビル被害にあった人の中には、「もう二度と来たくない」という人もいる。
委 員	つかまえたヤマビルに息を吹きかけると活発に動きだす、などの習性を教えてあげるのも環境教育だと考えている。ハチもオスは刺さないがメスは刺す、など生き物への対応の仕方を学ぶことも必要。
委 員	七沢の水源林エリアの森林は、七沢の活動団体のどちらが管理しているのか。
事務局	水源林エリアの森林は、森林組合が管理している。
委員長	各団体いろいろな活動をしているが、やり方や困っていることなどたくさんあると思うので、情報を共有するイベントやワークショップ、必要であれば我々委員も含めて、活動地域に入って話を聞き、助言できればと思っている。

委 員	厚木市内の団体だけではやっていないと思うが、県では年に1回、県内の活動団体のすべてを集めて、里山サミットを行っている。各団体から2、3人出席してもらっており、厚木市内の4団体も参加している。現状、そのような機会を県として提供している。
委員長	公園に花などを植える花未来事業も当初、ボランティア団体は6団体程度だったが、現在は150団体程度になった。各団体を回ってみると運営や高齢化等の課題を抱えており、各団体間で情報を共有したい、という考えから、緑のまつりなどのイベントにブースを出展し、団体間の情報共有をしたり、市民への啓発活動を行った。 里地里山の保全については、喫緊の課題であり、今の段階で子どもたちの世代に、正しい理念を伝えていかないと、将来、里地里山なんてどうでもいいやと、誰も見向きもしなくなってしまう恐れがある。ぜひ、7つの認定団体が一緒になって行う、里地里山の啓発活動の推進を検討してほしい。
委 員	里地里山の里山の範囲は、どこまでと考えればよいのか。
委員長	里地里山の里山の範囲については、奥山は含まないという考え方でよいのでは。厚木市で言うと、大山までは里山の範囲と考えている。
委 員	活動している団体で、飯山観音の近くに蠟梅を植えた。そこから麓までの間に蠟梅を植える、という計画があったが、それが原因で山崩れがあったら大変だという話が出て、立ち消えになった。山の整備については、いろいろなことを考えていかなければならない。
委員長	景観作物を植えるにしても、抜根や基盤整備が必要になる。福島の花見山をイメージした整備を徐々にでも進めていければいい。災害への懸念もあるが、荒れた状態よりは、花木等を植えておいたほうが良い状態であるといえる。そういう意識を地域の中で共有していくほうが良いのではないか。
委 員	先日、視察で休耕地に景観植物としてポピーを植えている場所を見てきた。農業者が整地して種を蒔き、草取りは市の予算でシルバー人材センターが行い、開花時のイベントでは地場産品を販売していた。 そういった役割分担ができると取り組みやすいのではないか
委 員	県の認定団体には、市の補助金分が加算された形になっているが、県の認定を受けていない団体について、何か理由があれば教えてほしい。 また、認定団体に対して、補助金以外の支援も行っていると考えて良いのか。
事務局	補助金頼りではなく、自立して活動を継続していくのが望ましいと考えている。県の認定を受けていないのは、農地に比べ、山林の保全に係る補助単価が低いことや他の財団などから支援を受けていることなどがあげられる。ただし、県の補助を必要としないと言っている訳ではないので、必要があれば予算調整を行っていく。 また、補助金以外の支援については、市民ボランティアの公募や企業

委員長 委 員 委員長	等のマッチングの調整、書類作成のサポートなどを行っている。団体の事務上の負担を極力軽減し、本来の保全作業や市民や企業の受け入れの方に力を入れてもらいたいと考えている。 植樹祭などイベントにある程度人は集めることはできても、大変なのは日常管理のメンテナンスであり、そこが一番重要である。 飯山の観光協会でも、これまでに延べ 650 本くらいの桜を植えてきたが、1 割程度しか育っていない。 メンテナンスがしっかりできないと成果、評価につながらない。今後そういった問題も出てくると思うので対応を考えていかなければならない。 また、その他意見等があれば、事務局の方へお願いします。
事務局	〔 3 案件 （2） その他〕 委員の改選及び今後の会議日程について事務局から説明。
事務局	〔 4 閉会〕